

フブの森通信



「フブ」とはアイヌ語で「トドマツ」の意味。かつて北海道に原始の森が広がっていた時から、トドマツはこの地にありました。森とともにあった人々の暮らしに思いをはせ、その頃と変わらぬ香りをお届けします。

もみの木って
どんな木?



? クリスマス木?

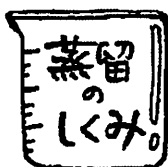
ハイジの木? ?

“もみの木”とは、マツ科モミ属の木たちの総称。北海道に生えるもみの木は「トドマツ」という一種だけです。北海道以外にお住まいの皆さんには同じモミ属の“モミ”や“シラビソ”などといった種類がなじみあるでしょうか? 北海道のもみの木トドマツは、天然の森にも人工林にもたくさん見られる、まさに北海道を代表する樹種なのです。下川町のもみの木エッセンシャルオイルは、このトドマツの葉と枝から作られます。そしてこのトドマツは、国内の針葉樹の中でも最も葉から精油がたくさんとれる樹種でもあるんです。軽くてさわやかな森の香りがします。

ロシアでは同じモミ属の“シベリアモミ”の枝葉から採れる精油を昔から民間療法に利用してきたそうです。もみの木の精油は、風邪やアレルギーで咳が止まらないときに蒸気と一緒に吸い込むと楽になるなど、気管支のはたらきを良くしたい時や、鼻炎や火傷などの時に使われてきました。

モミ属は学名で“Abies-アビエス”と言いますが、これはラテン語で「とこしえの命」という意味。もみの木が昔から人々の健康を守ってきたことがうかがえます。もみの木精油の成分には、他にも抗菌作用等もあり、生活の様々なシーンで役立ってくれます。

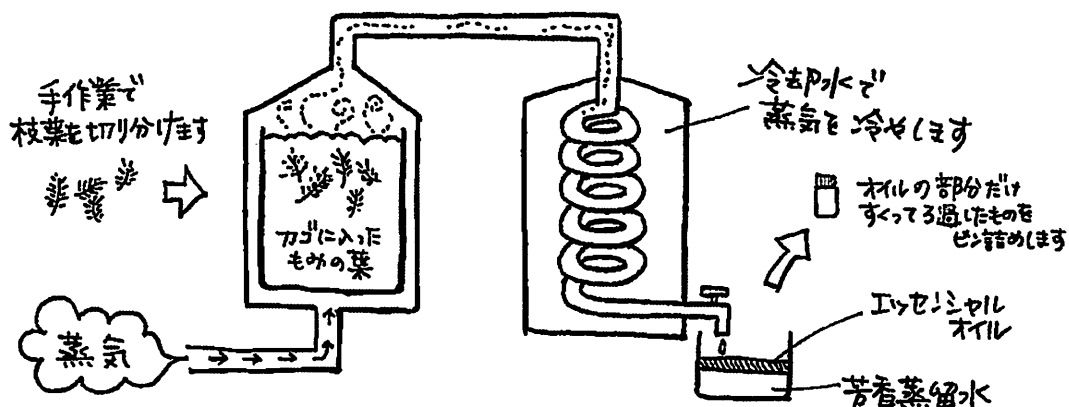
北海道の森には、そんなパワーを秘めたトドマツがたくさんあり、林業の町下川町では間伐作業中に出る枝葉を利用して2001年からエッセンシャルオイルづくりに取り組んできました。もみの木の持つさわやかな森の香りと、私たちの体や暮らしに作用する力を皆さんのお手元にお届けしています。



もみの木 エッセンシャルオイルは
こんなふうに作られます



エッセンシャルオイルの抽出方法には、大きく分けて水蒸気蒸留法、圧搾法、溶剤抽出法の三つがあり、もみの木精油の抽出は、水蒸気蒸留法で行われます。林業の現場へ行き、伐採された木の幹から枝をはずし、葉と若枝だけを切り分けながら袋に詰めて、工場へ運びます。新鮮なうちにそれらをカゴに詰めたら水蒸気でじっくり2時間蒸留します。冷却されて出てきた水は、トドマツの芳香成分を含んだエッセンシャルオイルと芳香蒸留水に分かれて溜まるので、一晩静置してしっかり分離させます。上の層に溜まったオイルをすくい取ってろ過したものが、皆さんにお届けするもみの木エッセンシャルオイルです。宵々としたもみの葉の芳香成分が、ぎゅっと凝縮されてオイルとなる姿は、何ともいえぬ感動的なもの。森の恵みに感謝したくなる瞬間です。



下川町の精油づくり

下川町では、間伐などの作業の際に出る枝葉を有効利用するために、精油づくりを始めました。下川町森林組合が事業化し、2008年にはNPO法人森の生活が引き継ぎ、2012年に事業が単独で株式会社フブの森となりました。また、下川町は2001年にFSC®森林認証という、責任ある森林管理を意味する世界水準の認証を北海道で初めて取得し、伐って育てる循環型の林業を実践しており、この北海道モミエッセンシャル追いうるにも、FSC®森林認証のマークがつけられています。



しもかわ町の
モミの木たちの
くらし



エッセンシャルオイルの原料は
森づくりの作業の中から
生まれます。

Hokkaidoモミの木
は
本名「トドマツ」と申します



「モミの木」とはモミ属の木の総称。
ロシアに行けばシベリアモミ。
本州ではシラビソなどのモミの木がいます。
北海道に生えるモミの木の名はトドマツです。
皆さんには「モミの木エッセンシャルオイル」と素敵に
呼んでもらっていますが、林業の現場では
「トド。」と通称で呼ばれています。



オイルのために
育てるんだ
ないのね

ちなみに

北海道ではトドマツの他に
カラマツという木もよく
不遇されますが、木による
作業のタイミングは異なります。
カラマツはトドマツよりも早く
育つんですよ！

エッセンシャル……..
オイルの原料に
なります



伐った木の幹の部分は木材として運び出さ
れますが、枝葉の部分は過熟林地に置いた
ままにされます。モミの木エッセンシャル
オイルは、それら枝葉を蒸して蒸留し原料と
しています。現場の作業状況や、林道から
の近さなど運搬し出しの条件が揃ったら、運
送をもらって出動します。

糸刈に
うえつけ
植付け



畝の間は、草や雑草を刈るのに使
います。木が倒つてきたり倒れ
ます。そのため、トドマツが休眠期
に入る9月下旬頃から苗木を運出し、
植付けを行います。下川町では気
候条件も考慮して秋にだけ植付けが
行われています。

5~6年は
下刈



植えられたばかりの苗木には、
人の背丈よりも高く伸びる木が生え
ます。日陰になってしまったりは生
長で進まない、トドマツは成長の速
いので、5~6年ごとに下刈りという
作業を行います。

10~15年たつと
除伐・枝打ち・下刈り



「除伐」とは、植えたトドマツの生長
を妨げる他の樹木や、曲がったり途中
で折れてしまったトドマツを伐る作
業。また、節の多い木にするため、不
健全な枝を落とす作業を「枝打ち」とい
います。その他にも、樹皮を剥く「さ
きむき」という作業も行いま

35年くらいたつと
間伐



植えられてから35年ほどたつたところ
は、徐々に間伐が行われます。間伐
された木は太さなどによって、パルプ
や製材として利用されます。下川町
ではその他にも、間伐された木を炭や
固材（木を圧縮した固材）などに
加工し、商品化しています。

65年くらいたつと
主伐



下川町では、65年をトドマツの半
熟期としています。主伐時期とはあ
る程度安定していて、65年たつた
ら全て伐るというわけではありません。
だいたい太さが30cm以上で育つた
ら、主伐を育てても良い時期ですよ、
ということになります。

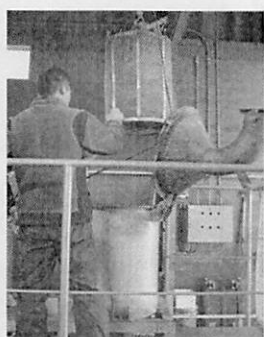
北海道モミ精油ができるまで



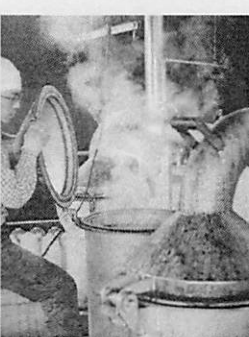
伐った木の幹の部分は他の用途
に。これまで捨て置かれていた
枝葉の部分を有効利用して精油
の原料としています。



枝葉をトラックに積んで工場へ
運びます。葉の鮮度が大切な
ので、スピードや温度に気を使
います。



原料を蒸し、成分を含んだ蒸気
を冷却して液体にする。「水蒸気
蒸留法」という方法で精油を抽
出します。



4台の蒸留釜で2時間蒸留し、
250~450mlの精油が採れま
す。同時に香りのついた水（芳
香蒸留水）も採れます。



出てきた液体は、ほとんどが
芳香蒸留水。水より軽い精油
が上部に浮いて層を作るので、
それを回収します。